

# 平成 20 年度 経済学部活動報告

## ◆ 環境方針

### <基本理念>

本学部は、教育および研究を通して、環境改善の啓発活動および環境保全活動を積極的に実施し、環境に配慮できる人材を育成することを社会的使命として認識し、持続可能な社会の発展に貢献する。

### <行動指針>

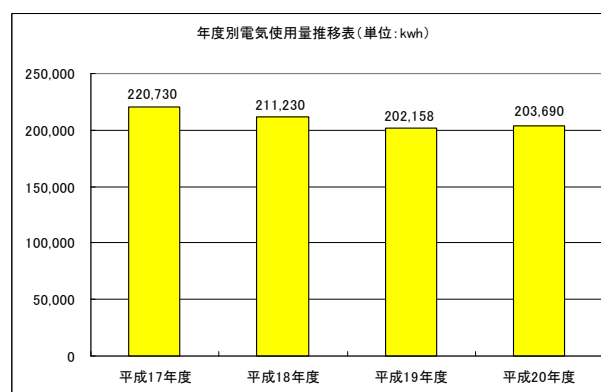
- 1) 環境マネジメントシステムを構築し、環境マネジメントシステムの全容を全ての教職員、学生に周知し、これを継続的に運用して改善を図る。
- 2) 環境に関する教育研究活動を実施し、環境保全にかかわる意識を高め、環境保全活動を普及し、環境に配慮できる人材を育成する。
- 3) 環境保全および改善のために省資源、省エネルギー、廃棄物の削減、リサイクル、グリーン購入を積極的に実施し、環境負荷の低減に努める。
- 4) 教育・研究・学内行政などあらゆる活動において、環境に関連する法令、条例、協定および学内規程等を遵守する。
- 5) あらゆる人に環境活動レポートを公開し、環境保全および改善に対する、本学部の取り組みへの協力と理解を求める。

## ◆ 環境目標

	環境目標	単位	平成18年度	平成19年度	平成20年度
1	二酸化炭素排出量の削減 (H.17年度実績をベースに平成20年度までに2%削減する)	Kg・CO <sub>2</sub>	1%削減	1%削減	2%削減
2	コピー用紙使用量の削減 (H.17年度実績をベースに平成20年度までに2%削減する)	枚	1%削減	1%削減	2%削減
3	使用水量の削減 (H.17年度実績をベースに平成20年度までに1%削減する)	m <sup>3</sup>	0.5%削減	0.5%削減	1%削減

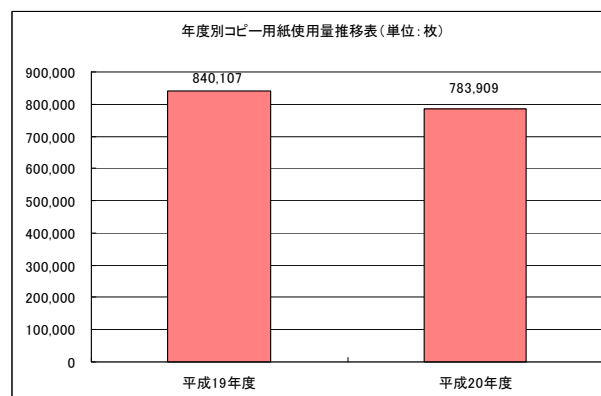
## ◆ 二酸化炭素排出量の削減

平成 20 年度における二酸化炭素排出量（電気使用量）は、平成 17 年度比で約 7.7%減少しており、環境目標を達成している。教授会や学生への環境教育で使用していない部屋の消灯およびエアコンの設定温度等を周知したことによる効果が現れ始めたと考えられる。平成 21 年度以降は、環境目標を改訂し、さらなる電気使用量の削減に取り組む。



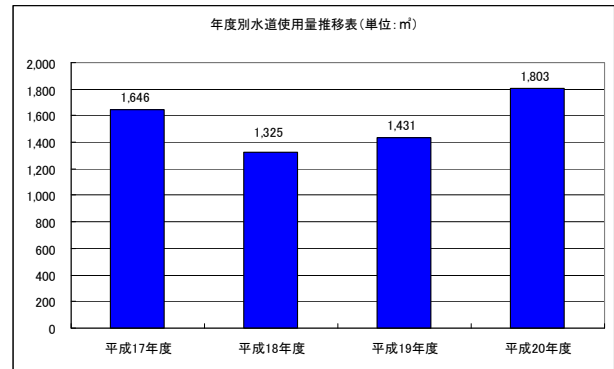
## ◆ コピー用紙使用量の削減

平成 20 年度におけるコピー用紙使用量は、平成 19 年度比で約 6.7%減少しており、環境目標を達成している。機器ごとに使用量をみると、総務係のコピー機以外は平成 19 年度と比較して削減している。総務係のコピー機の使用量が増加した原因は、大学の評価があり、そのための資料をコピーする枚数が増えたことが考えられる。



### ◆ 使用水量の削減

平成 20 年度における使用水量は、平成 17 年度比で約 9.5%増加しており、環境目標を達成することはできなかった。これは、改修工事のため、平成 20 年 10 月から経済学部 1 号館 1 階の多目的室が教養教育の非常勤講師控室として使用されることとなり、一日平均 20 名程度の非常勤講師が経済学部 1 号館に滞在することになり、これまで水の使用がなかった部屋で水の使用が始まったこと、およびトイレ等の使用が増えたことが最大の原因と推測される。しかし、この原因以外にも使用量が増えていることが考えられるので、教職員および学生のより一層の節水を促す。



### ◆ 今後の取り組み

経済学部では過去 3 年間の環境保全活動の実績をふまえ、次のように環境目標を改訂する。

環境目標		単位	H.21年度	H.22年度	H.23年度
1	二酸化炭素排出量(電気使用量)の削減 (H.19年度実績をベースにH23年度までに2%削減する)	kwh	1%削減	2%削減	2%削減
2	コピー用紙使用量の削減 (H.20年度実績をベースにH23年度までに3%削減する)	枚	2%削減	2%削減	3%削減
3	使用水量の削減 (H.17年度実績をベースにH23年度までに2%削減する)	m <sup>3</sup>	1%削減	2%削減	2%削減

また、ゴミの分別を徹底するため、研究棟に紙ごみ用の回収ボックスを設置し、経済学部の学生が定期的に紙ゴミを回収する。

### ◆ 代表者による全体の評価と見直し

二酸化炭素排出量(電気使用量)の削減およびコピー用紙使用量の削減については、環境目標の目標値を達成しており、評価できる。特に平成 20 年度はコピー用紙使用量の削減を重点課題として挙げていたことから、平成 17 年度比で約 6.7%の削減を達成できたことは評価できる。

使用水量の削減に関しては、平成 17 年度比で約 9.5%の増加がみられ、使用水量の削減に向けた取り組みを強化する必要がある。しかし、現在、学内の改修工事が実施されており、平成 21 年度以降も改修工事が行われることから、定期的に使用水量を調査し、状況の把握をすべきであると考えられる。

平成 21 年度中には経済学部 2 号館のトイレの改修工事が実施される予定であり、人感センサーを導入し、電気および水道の使用量が削減されることが期待される。また、経済学部 4 号館の屋上に太陽光パネルの設置を概算要求として提出しており、この要求が通れば、さらなる電気使用量の削減効果が出てくるものと考えられる。

廃棄物の削減については、学生センターとのゴミ置場共有の問題が解決していないが、経済学部では平成 21 年度から資源ゴミである紙ゴミを回収するボックスを経済学部棟内 6 箇所に設置する。このボックスに集められた紙ゴミを学生に回収してもらい、ゴミ分別の更なる徹底を実施し、学生の環境意識の向上を図る。

そして、平成 21 年 4 月の新入生オリエンテーションの際に、エコアクション 21 の活動について説明し、新入生に環境保全活動の周知を図った。さらに、大学入門科目の一環として環境教育を実施する予定である。環境保全活動を新入生に周知徹底することにより、今後の学生生活の中で環境問題に対する意識が高まり、環境に配慮できる人材として成長していくことを期待する。

経済学部は、大学全体としての環境負荷の排出割合が低い、今後も教職員および学生の環境保全活動に対する意識を高め、教職員および学生が一体となって環境保全活動に取り組む。

学部長 富田 義典